



かりや ともひろ
假屋 智博 さん

34歳／平成22年春に東丘で就農。トラクターなどの作業機は中古のものを安価で導入し、極力初期投資を抑えた。



しょうじ まなぶ
東海林 学 さん

35歳／明成香農園株式会社（釜加）勤務。昨年春から責任者として28.5ヘクタールの農場を任されている。



おおかわ さとし
大川 聖士 さん

32歳／平成20年から3年間の研修を経て昨年春に就農。釜加の農場までは勇舞の自宅から毎朝通っている。



道央農業振興公社
ふじもと よしのり
藤本 義範 主任技術指導員

研修参加者の指導を担当。就農後も農産物の技術的な面に限らず、家族の生活のことなど幅広い相談を受け、新規就農者のアフターフォロー役を務める。



↑妻の多枝子さん(中)と夫婦2人3脚で畑作に挑む假屋さん。「力がつき頼もしくなくなった」という息子の伯都さん(左・小4)も草取りなどを手伝う。

→今年から作付けしたピートの収穫は10月ころ。実りの秋に向け夏は草取りや防除などの作業が続く。



大川 野菜づくりの職人となり、「もうかる農家」を目指します。私のような新規就農者でも農業で生活ができることを実証したいです。前例があれば新たに就農を希望する方も踏み出しやすくなり、結果として就農者が増えることにつながります。

農業を盛り上げたい 若き就農者が目指すもの

東海林 切り花の生産にもっと力を入れています。近隣には花の生産が有名なまちもあります。花は地域によって「仕立て方（出荷するときの切りそろえ方）」が異なるので、たくさん見て回って学んでいます。現在はトルコキキョウなど数種の花を手がけていますが、経験を重ねて規模を拡大したいです。

假屋 将来的には30ヘクタールほどに畑を広げ（現在は13ヘクタール）、理想とする麦やピートの畑作で家族を養っていきたいです。また、私自身がここまでやってこられたのは、地域の

皆さんの支えがあったおかげです。農業を営む方が減っている現実の中、この地の農業が衰退しないよう、仲間同士で情報交換をして支え合い、地域の農業を盛り上げたいですね。地域に貢献できる農家になることが目標です。

藤本 新規に就農した方は、農産物を育てる技術や経験、農業を経営する知識などが不足しています。もちろん、専門の職員や私たちが伝えることもありませんが、大きな支えとなるのは地域の農業者からの手助けです。農村社会は助け合い、支え合いの社会です。地域の方も新しい就農者に期待しています。新規に就農した方は積極的にコミュニケーションをとることで農村社会にとけ込み、頼られる地域の構成員となることが大切です。

また、公社の研修制度に参加して就農を目指す方は年々増えています。皆さんには、その地で新たに就農する方がいたときに、自らの経験を伝えてほしいですね。そこに新しい支え合いが生まれることが、農村社会の拡大のきっかけとなり、地域の農業の活性化につながるのではないのでしょうか。私も皆さんに期待しています。